

農林水産大臣賞受賞

「もの・こと・ひと」が融合した現在進行形のむらづくり

いとまんしこめすくじちかい
受賞者 糸満市米須区自治会

いとまんし
(沖縄県糸満市)

■ 地域の沿革と概要

糸満市は、那覇市の南約 12km にあり、沖縄本島の最南端に位置している。東側は太平洋、西側は東シナ海に面しており、沖縄を代表した漁業のまちであり、古くから漁業で栄え、海に生きる暮らしから、月の満ち欠けによる陰暦での行事や門中^{もんちゆう}といった社会組織など独自の精神文化がはぐくまれている地域である。また、沖縄戦終焉の地として、平和祈念公園やひめゆりの塔が存在しており、戦没者の慰霊と平和の尊さを現在に伝える重要な役割を担っている都市でもある。

第 1 図 位置図



■ むらづくりの概要

1. 地区の特色

米須集落は、糸満市の南東部に位置し、古くから農業の盛んな地域であったが、地域一帯が厚い琉球石灰岩に覆われた保水力の弱い土壌のため、「枯摩文仁」と呼ばれるほど干ばつ被害を受けやすく、かつては、さとうきび、葉たばこ等栽培作物も限定され、後継者育成が難しい状況にあった。

こうした中、平成 18 年 3 月に米須地下ダムが完成し、安定的な農業用水が確保できるようになったことから、これまでのさとうきびを中心とした

第 1 表 地区の概要

事項	内容	
地区の規模	集落	
地区の性格	地縁的な集団等	
農家率 (内訳)		4.6%
	総世帯数	20,647戸
	総農家数	956戸
専業別農家数 (内訳)	専業農家	368戸
	1種兼業農家	135戸
	2種兼業農家	238戸
農用地の状況 (内訳)	総土地面積	4,663ha
	耕地面積	1,410ha
	田	0ha
	畑	1,410ha
	耕地率	30.2%
	農家一戸当たり耕地面積	1.5ha

注：糸満市の概要

栽培から、野菜等の高収益農業に転換するための環境整備が図られ、最近では、モロヘイヤやトルコギキョウ等の新規品目の栽培も増え、園芸品目の生産が盛んな地域となっている。

2. むらづくりの基本的特徴

(1) むらづくりの動機、背景

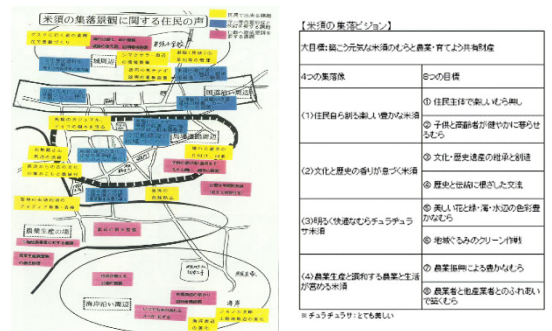
産業構造の変化等により、徐々に集落に対する愛着や集落づくりに対する機運が薄れていく危機感を機敏に感じた集落のリーダーが、平成8年に住民参加型の集落づくりを目指し「米須活性化協議会」を立ち上げ、約2年をかけ集落ビジョンを作成した。

この集落ビジョンは、集落の住民だけではなく、集落外に居住する米須出身者やその子弟からも意見を取り入れて作成されており、米須集落の将来に向けた道しるべとして、集落ビジョンに基づいたむらづくりが長い年月をかけて着実に実行されている。



写真1 集落での話し合いの様子

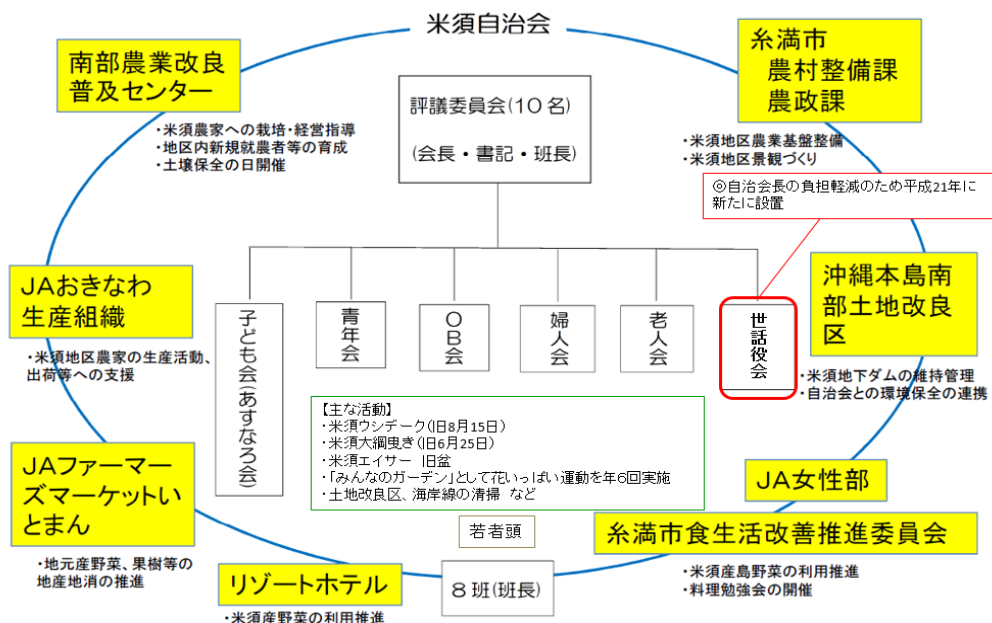
第2図 住民の声と集落ビジョン



(2) むらづくりの推進体制

むらづくりの推進体制は、米須区自治会を中心に、沖縄県、糸満市、JAおきなわ、土地改良区といった関係機関に加え、地域のリゾートホテル等民間事業者とも連携を図りながら、自治会の下部組織となる青年会等各組織がそれぞれの役割に応じた活動を実施している。

第3図 むらづくり推進体制図



ア 自治会下部組織の概要

① 青年会、青年OB会

青年会は、19～24才までの男女、OB会は25才以上の男子で構成されており、合計110名の会員からなる。清掃活動や米須大綱曳き、米須エイサーなどの地域活動の中心組織となる。



写真2 米須エイサー

② 婦人会

主に60才までの既婚女性で構成され、68名の会員からなる。婦人会がメインで踊るウシデークや盆踊りなどの伝統行事に加え、スポーツ大会の炊き出し、料理講習会等の活動の中心組織となる。



写真3 ウシデーク

イ 世話役会の概要

平成21年、米須自治会の新たな集落活性化に向けた取り組みとして、自治会の下部組織として、新たに世話役を立ち上げ、その下に7つの班を設置し、班ごとに様々な活動を展開している。

第4図 世話役会の7つの班

世話役会を構成する7つの班

- | | |
|-----------|--------------------------------------|
| ①おもてなし班 | : 米須の特産品の開発するほか、米須を訪れるお客様におもてなし料理を提供 |
| ②子供学芸員育成班 | : 子供のお客様を案内 |
| ③生活学芸員 | : お客様ニーズに合わせて案内 |
| ④生活感幸班 | : 民泊を受け入れ民泊のお客様を案内 |
| ⑤マップづくり班 | : 米須の魅力を掲載したマップを作成 |
| ⑥集落美化班 | : 米須が住みよい地域になるための美化活動を展開 |
| ⑦環境協定班 | : 米須地区環境協定の内容を推進するほか、各班の連絡調整を行う |

■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

米須区自治会によるむらづくりは、農業用水の安定的な確保により「枯摩文仁」から脱却し、水あり農業へ転換が図られたことと併せて、地域の潜在的価値を活かした地域活性化に取り組んだ結果、地域住民が元気になり、昔ながらの伝統・文化を大事にしつつ、集落ビジョンを道しるべとして、現在も新しい取り組みが次々と進められており、「もの」、「ひと」、「こと」が融合した現在進行形のむらづくりとなっている。

2. 農業生産面における特徴

(1) 農林漁業生産、流通面の取組状況

平成 18 年 3 月に国営土地改良事業により米須地下ダムが完成し、各ほ場まで農用用水が安定的に共有できる体制となったことから、これまでのさとうきびを中心とした栽培から、収益性の高い園芸品目への転換が図られている。

近年では、モロヘイヤやトルコギキョウ等新規品目の栽培も増えてきており、



写真 4 スプリンクラーによるかん水

1 戸当たりの農業産出額も平成 7 年の 413 万円から、令和元年は 614 万円と 50% 増加している。

米須自治会では、地元にあるリゾートホテルと地元の野菜農家を公民館でマッチングする取組も行っており、その結果、米須の生産者とホテルで直接契約し、米須産の野菜を使用した料理がホテルで提供されている。

また、米須集落の近くに、平成 14 年に県内初のファーマーズマーケットがオープンしており、米須地区で生産された野菜等農産物の安定的な出荷先となっている。

(2) 活動による構成員等の経営の改善、後継者の育成・確保、女性の経営参画の促進状況

米須自治会の各組織により集落の資源、景観保全、郷土文化の継承が図られ、米須地下ダム等の整備による営農条件の好転により、高収益作物等の栽培による農家の経営改善が図られるなど、集落環境が住みよい形に変わってきており、親世代から農業を学びながら経営継承が進んでおり、平成 24 年度以降、毎年 2 名前後の新規就農者が誕生している。

また、集落内には女性農業士 1 名が活躍しているほか、夫婦で目標を立てて農業を営む「家族協定」の認定農家も 13 戸と、女性の活躍も見られる。



写真 5 トルコギキョウ生産者

3. 生活・環境整備面における特徴

(1) 生活条件の改善・整備、コミュニティ活動の強化、都市住民との交流等への寄与

ア 米須地区環境協定の取組

米須地区の自然や生活環境を自分たちで守り、子や孫たちに届けていくため、環境に対する最低限の生活ルールを米須地区に住んでいる人で話し合う「米須地区環境協定」を米須自治



写真 6 米須区環境協定等看板

会と区民の間で平成 23 年に締結している。

協定は、海を汚さない、ゴミを出さない、農薬や化学肥料を減らす、緑化運動を推進するなどが掲げられており、住民による環境・景観の維持が図られている。

イ 米須 村丸ごと生活博物館の取組

住民参加による「ある物探し」を開催し、地域の潜在的価値を活かした地域活性化に取り組み、平成 22 年に「米須 村丸ごと生活博物館」を宣言している。

米須地域全体を屋根のない「博物館」として、地域の宝物（生活・文化・産業・自然等）を地域外から訪れる人に対し、集落マップや案内版を活用し説明する取り組みが行われている。

(2) 地域への定住促進、女性の社会参画の促進状況

米須集落では、住民みずからが独自に集落や周辺地域の環境保全の当事者として関わることで、住みよい農村環境が保たれていることから、若い後継者が徐々に集落に戻ってきている。外国からの移住者もあり、結果として、平成 3 年から令和 3 年までの約 30 年間、米須地区の人口が維持されている。

また、婦人会が中心となった世話役会の「おもてなし班」により、米須集落に訪れた人に地域の食材を使ったおもてなし料理の提供や、JA 女性部と一緒に料理勉強会の開催、糸満市食生活改善推進協議会と連携した島野菜弁当を高齢者宅へ提供する等、地域の食材を活用した取り組みが積極的に行われている。



写真 7 おもてなし班の皆さん